

# 【2022年度 京丹ブロック共同宣教司牧 長期・中期・短期計画】

京都司教区 京都南部地区京丹ブロック

## 1. 長期計画（2013年度作成）

地域に対して福音宣教をおこなって行く教会共同体となっていきたいと思います。

2013年度に制定された長期計画は、以下の二項目をこの地域の教会共同体の歩むべき方向性を示すものとして立案されています。 ①「信仰養成の観点から」 ②「小教区適正配置の観点から」

本年度も引き続きこの長期計画を念頭に置きながら、京丹ブロックの教会共同体は、福音宣教者の集まりとして存在します。

その実行計画として、今年度におこなう短期計画を新たに制定します。

以下に示すブロック基本方針に基づき、各小教区で具体的な活動計画を策定し実行していく。

## 2. 中期計画（2017年度作成）

- ・長期計画の10年目に当たり、ブロック内各小教区のビジョンを持ち寄り、短期計画の実行計画、具体的行動、評価反省、それに基づく更なる行動に繋げてブロックの動きを確認し、取り組みを継続・発展させていきます。

## 3. 2022年短期計画

### (1) 司教年頭書簡 コロナ時代を生きる信仰Ⅱ

「キリスト者の終活を始めよう」に応じた活動

- ・「終活」とは、キリスト者の終活。

終活を「生・活」=今を<生>きる<活>動のヒントとします。

### (2) コロナ禍における自粛生活の中で、ミサ中止という事態を経験し各自の信仰生活を振り返る時間を持ったことで、コロナ時代を生きる信仰を根本から見つめ、深めていきます。

### (3) 教皇フランシスコの考えの基本「あらゆるものはつながっている」という視点

- ・貧しい人のいのち、他の宗教の人、他の国の人、他の民族の人と全部つながっている。
- ・病者、高齢者、子どもたちともつながっている。
- ・シノドス（第16回世界代表司教会議、開催予定2023年10月）のテーマは「ともに歩む教会のため=交わり、参加、宣教」。教皇フランシスコは、その歩みで、3つのステップ（出会うこと、聴くこと、識別すること）が大切と強調。

### \* 以下は今年度短期計画・上記（1）（2）（3）の参照

収束の見えないコロナ禍で、行事や取り組みを行う上で様々な制限が加わってきます。その中で信徒の皆さんの命を守りながら一人でも多くの信徒が信仰の喜びを実感できるような時間になれるように、行事等の抜本的な見直しによるシステムづくりや、人員体制見直しを考えていきます。その一環として外国信徒の皆さんとの更なる連携も考えていきます。

### ①新型コロナウイルス感染の影響の中でも、貧しい人・弱者・病者に寄りそい、かけがえない「いのち」を賜物として守る

・当面の間、教会共同体のいのちである「集まる」ことへの制限が続き、公開ミサ、集会の休止が予想されます。この現実の中で、教会に関わるすべての人びと・信徒（外国人、日本人）に関心を持ち、共同体とともに築く信仰の仲間として、あらゆる可能な手段を検討し、必要ならば慣例を見直し、新しい方法を取り入れながら、誰一人取り残される人がないように模索していきます。そのために、時間や手間がかかっても丁寧なコミュニケーションをはかります。

・教会から離れている方々、つながりを確認できるようにいろいろと対策を考え、取り組んでいきます・

### ②子どもたち及び青少年の育成支援を強化

・ブロックで行われる子どもたちを中心とした遠足などの催しを支援するために祈り、ともに参加し、経済的な援助  
・教会に来る子どもたちのために日曜学校を実施します。必要に応じて共同開催も実施します。  
・共同体の一員である青年との交流を深めるために、挨拶、対話を通して積極的に交流し、青年がゆえの不完全さも含め互いに認め合い、チャレンジできる場をつくり、世代を超えてともに活動します。

### ③社会に奉仕する教会共同体

・自国第一主義が蔓延して、政治・経済・宗教にみられる傾向に対して、福音に根差し平和を求める活動に積極的に支援・参加交流を図り、世界平和への祈りを行います。  
・従来からの諸活動への支援について、更に理解を深め交流していく機会を持ちます。  
・開かれた教会作りを実践するため、教会聖堂の開放や地域の人びとと連携ながら取り組みなどによって交流を深めます。

以上